

第一部 年間の諸行事・諸活動と教育事業・研究活動・社会貢献活動等の成果

I 大学共通事項

1 教育事業

・新生淑徳

本学は平成 19 年、看護学部、淑徳共生苑の新設とともに新生の年を迎える。その「新生淑徳」のスタートを控えて、平成 18 年度中にも着々と準備が進められた。

・淑徳大学看護学部開設準備室

平成 19 年 4 月の開学に向けて新学部設置準備室(平成 17 年 6 月、その後に看護学部開設準備室へ改組、平成 18 年 10 月)が設けられ、設置へ向けての申請業務や、実習病院、実習施設、実習を行う保健所・保健センター等の確保を行った。準備室は看護学部長予定者の渡邊弘美を準備室長として、その他事務部、教員予定者が業務に携わった。

平成 18 年 6 月 14 日に「淑徳大学看護師学校・保健師学校指定申請書」を文部科学大臣に提出し、続いて平成 18 年 6 月 30 日付で「淑徳大学看護学部設置認可申請書」を文部科学大臣に提出した。

申請後は設置認可申請中を明記してオープンキャンパスや募集活動を行った。主な実習先は隣接する国立病院機構千葉東病院であり、今回の設置は国立病院機構と私立大学が連携した初めての四年制看護教育への参入であった。

平成 18 年 11 月 30 日に文部科学大臣より、看護学部看護学科、募集定員 100 名で平成 19 年 4 月 1 日に学部開設の設置認可を受け、同時に看護師学校、保健師学校の指定を受けた。

入学試験は平成 18 年 12 月 16 日の推薦入試を皮切りに、平成 19 年 2 月 3 日～4 日に一般入試を、2 月 23 日に AO I 期を、3 月 14 日に AO II 期の入試を行い、113 名の第 1 期生の入学者が決定した。

・淑徳共生苑

本学は建学の精神として実学教育を標榜し、これまで長年にわたって社会福祉教育に取り組んできた。なかでも実学教育の核となる実習教育に関しては、平成 10 年度より新しくなった社会福祉実習指導センター(現:社会福祉実習教育センター)を中心に、社会福祉実習先施設を契約施設とをすることで実習内容の充実と実習教育指導体制の強化を図ってきた。しかし、実学を重視する本学にとって、他大学と同じように外部へ実習の協力を求めるだけではなく、医学部のような臨床の場との一体的な教育体制のなかで実践力をつけた専門職の養成を行うことが急務となった。

他方で、本格的な少子高齢社会を迎えて本学が立地する千葉市においても、高齢者福祉施設と福祉マンパワーの供給は、喫緊の課題となっている。そうした地域の福祉ニーズに応えるために、本学としても高齢者福祉施設の設置を強く望んでいた。

こうした経緯のなかで、学長を中心として社会福祉法人淑徳福祉会(平成 17 年 8 月 30

日法人認可)を発足させ、特別養護老人ホーム「淑徳共生苑」の設置準備を行い、平成 19 年 3 月 23 日に千葉市より設置認可を得て、4 月 1 日より利用者を受け入れている。

淑徳大学と姉妹施設となるこの淑徳共生苑は、本学と密接な連携のもと、大学ならびに短期大学の基幹的実習教育施設の役割を担うことになる。また、実習教育方法の開発等を含めて研究を行い、他との違いを示すことができる実践力を備えた専門職養成の教育を行っていく。同時に、市内における社会福祉関係の専門職・ボランティア等の教育・研修に積極的に寄与することを目的の一つとしつつ、大学とともに地域連携を図るための拠点となることを目的としている。

・天津大学との協定書調印

「学生夏期中国語学研修」に関する協定書調印のため、平成 18 年 11 月 7 日から 9 日まで本学から 5 名の教職員が天津を訪れた。本学からの訪中団、長谷川匡俊学長、足立勲学長特別補佐、境忠宏学長特別補佐、卜雁講師、葛西信雄総合キャリアセンター主任は、滞在中、天津大学龔克学長、蘇全忠副学長、国際協力処譚処長、国際教育学院張院長、陳副院長、並びに関係部門の諸学院長と会談し、8 日に行われた調印式に出席した。

・「第 4 回学生生活実態調査」への対応

平成17年11月に実施された「第 4 回学生生活実態調査」の概要は『第 4 回淑徳大学学生生活実態調査報告書』として 4 月に公表され、今後対応すべき主要項目（以下参照）とその対応策が各学部から 7 月に発表され、大学のホームページで公開された。

総合福祉学部

- (1) 大学からの連絡のあり方について
- (2) 食堂について
- (3) 授業について
- (4) 学生生活について
- (5) 学内 P C 環境について
- (6) バリアフリー化の推進及び分煙対策の強化について
- (7) その他

国際コミュニケーション学部

- (1) 食堂について
- (2) 購買・売店について
- (3) スクールバスについて
- (4) 事務局からの連絡について
- (5) 授業について
- (6) 学生生活について
- (7) マナー、分煙対策の強化について
- (8) その他

・第 1 回「学長・学部長等とのミーティング」開催

千葉、みずほ台両キャンパスの学生から、キャンパスライフをめぐる日頃の感想、疑問点、問題点などを挙げてもらい、今後の向上に資する機会として「学長・学部長等とのミ

ーティング」が初めて開催された。

日時 平成 18 年 12 月 25 日 (月) 場所 池袋サテライト・キャンパス

教職員の参加者は、学長、両キャンパスの学部長、学生厚生委員長、学事部長。学生は、総合福祉学部から 13 名、国際コミュニケーション学部から 8 名が参加した。

両キャンパス共通の話題としては「喫煙・携帯電話・授業態度」が取り上げられ、その他キャンパス毎の問題は、今後それぞれの学部で検討されることになっている。

・初の合同ジョブフェア開催

本学では、これまで学部単位でジョブフェアを開催し、就職希望の学生に対して求人情報等を提供してきたが、平成 17 年度より、学生に対するキャリア支援事業の強化策として大学単位による合同開催方式に切り替えた。これは、首都圏に広く在住する本学在生に対して、今まで以上のより多くの求人情報を学生に対して一体的に提供することをねらったものである。さらに、総合福祉学部での民間企業就職希望者の増加、国際コミュニケーション学部での社会福祉コース設置など、両学部合同のジョブフェア開催のメリットが高まりつつあることを背景に、平成 18 年度は、場所も同一の合同のジョブフェアとして開催された。

期 日 平成 19 年 2 月 9 日 (金)

場 所 シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル (浦安市舞浜)

参加者数 総合福祉学部 508 名 国際コミュニケーション学部 298 名

招聘公的機関・企業・福祉施設・団体 106 社

・平成 19 年度「現代 GP」申請案の検討

現代的教育ニーズ取組支援プログラムの「実践的総合キャリア教育の推進」部門で応募する準備を進めた。申請予定の詳細は以下の通りである。

取組名称：共生実践力開発実学教育プログラム「共に生きる力、養成支援プログラム」

キーワードは自己進化型キャリアデザイン、多目的学生インベントリー、自己編集型インターンシップ、実学教育国際交流、チーム型ダブルアドバイザー

取組の概要：淑徳大学の建学の精神「共生」に基づき、他者との協働を実践できるコミュニケーション能力を学生一人ひとりから引き出し、「共に生きる力」を備えて社会で貢献する人材を育成する自己開発型キャリア教育を導入する。

学生は 1 年次から自己理解を高め働く目的について学ぶ「キャリアデザイン」を履修する。3 年次にはキャリア意識を形成する「キャリア開発」を履修し、専門と職業の繋がりを明確化する。企業に加えて福祉、行政、国際交流分野を含む「自己編集型インターンシップ」は「キャリアデザイン」「キャリア開発」と連動して実施される。

具体的にはインターンシップ先の開拓、事前事後指導、評価は「総合キャリアセンター」が担当する。総合キャリアセンターとの連携のもとでキャリア開発を支援するアドバイザーと学習支援センターとの連携のもとで主体的学習を支援するアドバイザーによるチーム型支援を行う。

2 社会貢献活動

・淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告

①募金活動について

- ・豪雪地帯支援募金（新潟県津南町） 22,000 円 現地に持参し津南町助役に手渡す。（支援学生 安藤 悠、コーディネーター 廣橋 巖）
- ・ジャワ島募金 19,573 円 日本赤十字社千葉支社に寄付
- ・赤い羽根共同募金 13,353 円 千葉市社会福祉協議会に寄付

②5月28日 救急救命法講習会（AED講習）

③8月3日～4日支援学生合同合宿訓練（山中湖研修センター）

参加者計21名：学生14名（千葉8名・みずほ6名）教職員7名

④季刊誌「@ぼらんていあ」3号まで発刊

⑤龍澤祭に救護班として協力

⑥12月学内献血に協力

3 その他

・「平成17年度版淑徳大学年報」の発行

平成16年度に(財)大学基準協会から相互評価・認証評価を受けたことを契機に、本学の自己点検・評価を制度的かつ恒常的に実施することを目的に、「大学年報」が毎年発行されている。

大学年報の構成は、(財)大学基準協会の点検・評価項目に準拠している。同協会の点検・評価のうち「大学基礎データ」については毎年分を掲載しており、教育事業等に関する点検・評価に関しては、項目をおおむね3分割し、3年間ですべての項目について点検・評価を実施し、その報告を毎年掲載している。また、当該年度の新規の教育事業や研究活動、社会貢献事業、学生の諸活動等についても掲載し、本学の情報公開の一環にも位置づけている。